



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2012.5

No.337

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



中西悟堂を知っていますか？

本誌2月号でご紹介したように、今年4月から、メジロの愛玩飼養を目的とした捕獲が原則認められないことになりました。これにより日本国内では、飼うことができる野鳥は1種もいなくなりました。1934年、中西悟堂が日本野鳥の会設立時に掲げた目標「野の鳥は野に」は、78年の歳月を経て、ようやく実現したのです。ところで皆さんは、中西悟堂について、どんなことをご存知でしょうか？ 名前を知っている程度、あるいはまったく知らないという人もいるのではないのでしょうか？

● 鳥たちへの深い愛情

鳥に限らず、昆虫、爬虫類など、様々な生き物に興味を持っていた悟堂ですが、最も愛していたのは、やはり鳥でした。著書には「鳥はあらゆる生物のうち最も幸福な生活様式を持つものであるといえよう」と書かれています（『定本野鳥記』第1巻）。

悟堂は1895年、石川県に生まれました。子供の頃、虚弱だった体を鍛えるために寺に預けられ、厳しい修行に励みました。山中で座禅を組んでいた時、小鳥が寄ってきて体にとまった、というエピソードがありますが、修行を続けながら、小鳥たちが生き生きと動きまわる様子を見て、深い愛情を持つようになったのでしょう。悟堂はその後も仏教系の学校で学び、15歳で僧侶になりました。

少年の頃に芽生えた鳥たちへの愛情は、後年の幅広い保護活動の原動力となりました。その活動を貫く思想には、僧侶として深く学んだ仏教が、大きな影響を与えていると思われます。

● 一つ屋根の下で

悟堂が野鳥保護活動を始める前までは、鳥の楽しみといえば「食う・撃つ・飼う」。野生の鳥を観察して楽しむことなど、思いつく人さえいませんでした。この時代、悟堂も鳥を飼っていましたが、鳥を狭い籠の中で飼うという行為に疑問を持っていました。悟堂が行っていた鳥の飼養は、その目的も方法も、一般に行われていたものとは全く異なるものでした。家の中で鳥を放し飼いにしていたのです。悟堂は放し飼いに同じ『定本野鳥記』第1巻に「私が鳥を飼育するのは、それを山野における習性観察の基礎としたいから

であって、後には山野へかえすことを原則として書いている」と書いています。放し飼いをした鳥は、小鳥類はもとよりキツツキ類やフクロウ類、ウヤサギなど大型の水鳥まで。家の中は排泄物だらけ、悪臭が漂っていたでしょう。そんな中で、餌を与え掃除をし、健康を気遣い、長期間にわたって育てることは、生半可な気持ちではできません。日夜、熱心に世話をする悟堂に、鳥たちはよく慣れました。散歩にも鳥を連れて行きましたが、どの鳥も逃げ出すことなく悟堂の後をついてきたそうです。鳥との生活を描いた『野鳥と共に』（1935年）はベストセラーになりました。

● 日本野鳥の会設立へ

悟堂が鳥の放し飼いをしていた家は、東京都杉並区、善福寺池のほとり。近くには東京女子大のキャンパスがありました。その教授であった竹友藻風（詩人、1891～1954）は、鳥の放し飼いに興味を持ち、悟堂宅を訪ねるようになりました。そのうちに、藻風自身が鳥にハマってしまいます。籠の中の鳥ではなく、自由な鳥を扱った雑誌を作ろう、と言いだしたのは、藻風でした。

ところが雑誌の名前が決まりません。苦心の末に悟堂が選出したのが『野鳥』。それまで、あまり使われることがなかった「野鳥」という言葉は、これを機に、一般的な言葉として定着しました。『野鳥』誌創刊にともない、1934年3月11日、悟堂、藻風をはじめ鳥類学者や文化人12名が集まり、『日本野鳥の会』創設を宣言する会合が行われました。東日本大震災以来、忌わしい記憶がつきまとう「3.11」は、日本野鳥の会創立という喜ばしい記念日でもあったのです。

その年の6月には、富士山麓の須走で、初

めての探鳥会を開催。「探鳥」「探鳥会」という言葉は、悟堂が作りました。優れた観察用具のない時代の探鳥会は、さえずりに耳を傾け、鳥の巣を観察する会でした。参加者は当時の著名な作家や歌人、詩人など。悟堂は、彼らの作品を通して鳥の魅力を一般に広く伝えたいと願っていたのです。

● 広がる野鳥保護活動

悟堂の活動は、戦争により一時中断しましたが、戦後、ますます精力的に行われました。全国を行脚して講演を行い、子供向きの本も多数執筆するなど、野鳥保護思想の普及に努めました。日本野鳥の会も、各地に次々と支部が設立され、活動に参加する人も増えてゆきました。

また悟堂は、趣味としての狩猟を忌み嫌っていました。当時は、誰でも簡単に免許が得られたことから狩猟が大ブーム。多くの鳥の命が、楽しみのために奪われていました。悟堂はこれに歯止めをかけるため、国の鳥獣審議会に委員として加わり、明治時代以来の「狩猟法」改正に取り組みました。そして1963年、新たに施行された「鳥獣保護及ビ狩猟ニ関スル法律」は鳥獣保護の概念が取り入れられた画期的なものでした。

悟堂は、その後も日本野鳥の会会長として活躍を続け、1984年、89歳で世を去りました。

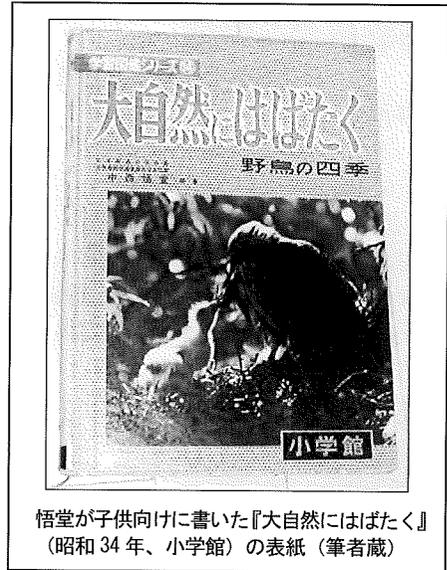
<おわりに…もしも悟堂が生きていたら？>

現在、日本野鳥の会の会員は減りつつあるとはいえ、約4万人。野生の鳥を見て楽しむことが、ごく普通のことになりました。また、<野の鳥が野で暮らすこと>が法律で守られることになりました。しかし、これだけで悟堂は満足するのでしょうか？

鳥の姿を愛する人は、たしかに増えましたが、鳥の暮らしにも目を向け、鳥の命そのものを愛する人は増えたのでしょうか？ そもそも、野の鳥が暮らすべき野>そのものが失われ続けています。

野鳥の会の会員減少から、環境破壊、地球温暖化、エネルギー問題まで、もし現在、悟堂が生きていたら、これらの課題にどのように取り組み、どんな答えを出すのでしょうか？

これまで中西悟堂を知らなかった方も、ぜひ一度、この巨人の業績や生き様に目を向け



悟堂が子供向けに書いた『大自然にはばたく』
(昭和34年、小学館)の表紙(筆者蔵)

てください。そして、もしも悟堂だったら？>という視点でいろいろな問題を考えてみてください。何かが見つかるような気がします。

<中西悟堂をもっと知るために…著書紹介>

一番のおすすめは『野鳥記コレクション』(全3巻、春秋社、各1,890円)。鳥に関する著作の集大成『定本 野鳥記』から作品を抜粋したもの。鳥の生態を鮮やかに描くエッセイ、昔はこんなに鳥がいたんだなあ、と垂涎の探鳥旅行記、生き物への思いやりを失って暴走する現代文明を厳しく批判した評論などが収録されています。

元となった『定本 野鳥記』(全16巻、春秋社)は絶版。先に記した『野鳥と共に』が収録された第1巻など、インターネットで探して入手できるものもありますが、全巻揃えるのは難しそうです。

雑誌『アニマ』に連載された自伝をまとめた『愛鳥自伝 上・下』(平凡社ライブラリー)。やはり絶版ですが、これはインターネットで手に入れられそう。巨人・悟堂のいろいろな側面が見えてきます。

本稿の執筆に際し、前述の悟堂の著書他、『ラジオ深夜便』2012年2月号(NHKサービスセンター)に掲載された西村真一氏の「野鳥の父」と私を参考に致しました。また西村氏には本稿についてアドバイスを頂きました。御礼申し上げます。執筆:小林みどり(さいたま市)

記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉記録委員会

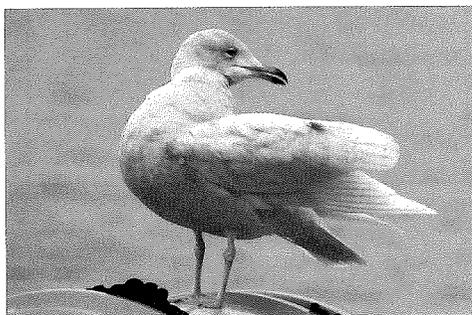
●シロカモメ

分類 チドリ目カモメ科カモメ属

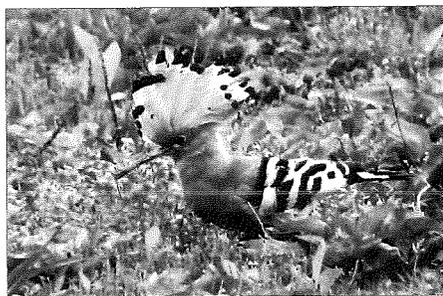
英名 Glaucous Gull

学名 *Larus hyperboreus*

2012年3月18日、さいたま市・戸田市などにまたがる荒川第一調整池彩湖の北端、さいたま市側のブイの上で休む若鳥1羽を海老原美夫会員が撮影＝下写真＝しました。



本種は全長64～77cm、翼開長132～142cm、初列風切と次列風切の先端が白いのが特徴で、ユーラシア、北米、グリーンランドなどの北極圏で繁殖、日本には主に本州北部以北に飛来し、本州中部以南ではまれな冬鳥です。海岸の大型カモメ類の中に少数混じっていることが多く、内陸部に位置する埼玉県内では過去当会に報告された記録は少なく、写真撮影されたのが1996年1月3日戸田市(本誌1996年3月第143号)、2001年2月3日越谷市(2001年6月第206号)の2例、写真のない観察報告が1996年3月19日戸田市(1996年5月第145号)の1例だけで、今回は写真を伴う確認記録として3例目です。



ヤツガシラ(鶺鴒喜雄)

鳥見ランキング2011 結果報告

日本野鳥の会埼玉普及部

恒例となりました埼玉県内鳥見ランキング、2011年の結果を発表いたします。

観察鳥種数の部は、石塚敬二郎さん、石塚奏さん親子が、同数でチャンピオンに輝きましたが、昨年度の年間観察鳥種には届きませんでした。昨年度の年間観察鳥種には届きませんが155種とすばらしい記録です。3位の内田さんも148種と昨年よりも記録を伸ばしています。

探鳥会参加回数部では、内田克二さんが51回でチャンピオンとなりました。

今回、募集が1ヶ月遅れてしまいご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

観察鳥種数の部

順位	鳥種数	氏名	住所
1	155	石塚 奏	さいたま市
1	155	石塚敬二郎	さいたま市
3	148	内田克二	さいたま市
4	147	矢沢義雄	久喜市
5	143	千島康幸	小川町
6	128	佐藤 宏	越谷市
7	115	榎本秀和	鴻巣市
8	113	吉原早苗	北本市
9	110	田中幸男	蓮田市
10	85	浅見 徹	さいたま市

探鳥会参加回数部

順位	参加回数	氏名	住所
1	51	内田克二	さいたま市
2	37	矢沢義雄	久喜市
3	33	吉原早苗	北本市
4	23	石塚 奏	さいたま市
5	22	石塚敬二郎	さいたま市
5	22	佐藤 宏	越谷市
7	18	浅見 徹	さいたま市

原稿の募集

今年の2月号3ページで募集した「最寄りのIBA、公園のフィールドガイド」、残念ながらご投稿はありませんでした。今回の締め切りは過ぎましたが、原稿はいつでも大歓迎です。

新たな原稿募集は「鳥の行動あれこれ」。詳しくは昨年11月号の3ページをご覧ください。400字程度でも結構です。締め切りはあえて少し先の8月10日。それまでは、婚活、縄張り争い、繁殖行動、子育て等々、鳥たちが最もあれこれ行動する季節です。ぜひ、ノートに記録を残しましょう。ただし、鳥に迷惑がかからないように、観察は短時間で切り上げてください。

マイフィールド 渡良瀬遊水地がラムサール条約登録地に

内田孝男（茨城県古河市）

平成24年2月18日、「世界湿地の日シンポジウム in 渡良瀬遊水地」がラムサール・ネットワーク日本（ラムネットJ）、渡良瀬遊水地をラムサール条約登録地にする会の共催で開催されました。第11回ラムサール条約締約国会議（COP11）が、7月にルーマニアのブカレストで開催されるにあたり、ラムサールCOP11の、国内プレイベントとして行われたものです。

午前10時より昼食をはさみ午後5時前までと長時間にもかかわらず、熱心な傍聴者が席を埋め、関心の高さがうかがわれました。

渡良瀬遊水地がラムサール条約登録地になるために必要な地元の賛意が得られるには、地域住民の安全安心のための治水事業が欠かせない条件です。したがって渡良瀬遊水地内はもちろん、渡良瀬川、巴波川、思川等も国土交通省が行う河川の治水事業を、計画から実施まで従来通り推進していくことが約束されなければなりません。

環境省は、条約登録の法的担保として、国指定特別保護区にせず国指定鳥獣保護区として河川法も加える考えを提唱し、「登録地になったとしても、国土交通省が河川管理のための工事等が以前と変わらず行える」ということを何度も説明してきました。

しかし地元の有力な治水推進団体や一部議員の方々から登録反対の署名簿が提出され、混沌とした状況でした。新聞等の報道によると昨年12月末、構成市町であり4市2町で最後に賛成表明した地元の栃木市長は、国土交通省に対して、「渡良瀬遊水地の管理や利用について、利用団体などの関係者による協議会を設置すること」、環境省に対して、「渡良瀬遊水地の治水機能の周知に努めること」の2点を登録条件に挙げています。

このように、昨年中は係る自治体・議会への請願、陳情、そして審議、また関係省の説明会の中で、治水推進派、NGO、一般人が幾度も話し合い、質疑応答を繰り返しました。

そしてついに平成24年2月29日、国土交通省利根川上流河川事務所内において、条約登録に難色を示してきた治水推進団体と条約登録推進の4団体で、国土交通省、環境省の担当者の立会いのもと、誓約書を交わしたのです。

今年7月、渡良瀬遊水地が登録地として発表されることが濃厚になりました。自然保護団体「渡良瀬遊水地を守る利根川流域住民協議会」が渡良瀬遊水地をラムサール登録地に、と目標を掲げて22年、野鳥の会埼玉が賛同し2006年3月から1年間、会を挙げて署名活動を進めて以来、早や6年が経過しましたが、いよいよ実現に近づきました。

渡良瀬遊水地で昨年6月、チュウヒの繁殖が確認されました。残念ながら巣立ちまでは至りませんでした。はじめてチュウヒの巣跡を見ました。直径1m弱、地表から50cm位の高さにヨシ、草の茎、麦の茎と思われる素材で作っており、間近に見る大きさに驚き、ここで卵を産み、雛に孵り、巣立ちそうだったと思うと感動しました。

東日本大震災の影響でヨシ焼きが中止となり、繁殖の潜在的期待はありましたが、現実となりました。今後も営巣するとは保証できませんが、十分繁殖が可能な環境があることは証明されました。

チュウヒは、イヌワシやクマタカよりも繁殖番いの少ない野鳥だそうで、2月18日のシンポの時に、来場していた野鳥の会（本部）自然保護室のK氏が、生態と保護の必要性の意見を述べられていました。環境省はぜひこのことも考慮して欲しいと思います。

渡良瀬遊水地は、私にとってマイフィールドです。その渡良瀬遊水地がラムサール条約登録地に加えられ、人々の賢明な判断により、賢明な利用が湿地として継続されていくことを期待し、これからも係っていきたいと思います。



野鳥情報

蓮田市西城沼公園周辺 ◇1月7日、ナンキンハゼの実をムクドリ2羽とシジュウカラ2羽が食べていた。軒下のジョロウグモが破れた巣にやっとなら下がっていた。生きているのだろうか。1月16日、尾羽の全くないスズメが1羽、20羽土のスズメと一緒に電線にとまっていた。丸くズングリして、ぎこちなく飛び回っていた。1月19日、ハシブトガラスが1羽柿の枝にいて、ネコが直ぐ後ろにいた。ネコは体を伸ばし前足を伸ばして、ハシブトガラスをつかもうとしているが、体を支えている枝が細く、思うようにいかない。ジャンプしてハシブトガラスを捕まえるには地上から高すぎるのだろう。ハシブトガラスは気がつかぬ振りをしている。カメラのシャッターの音でハシブトガラスは飛び去ったが、ネコはしばらくの間、柿の木から降りられなかった。1月27日、ツミ2羽がナラ林にいて、1羽が屋敷林に飛び込み、他の1羽も続いて飛び込んだ（長嶋宏之）。

戸田市彩湖 ◇1月7日午後2時～4時30分、右岸でミコアイサ♂、カワアイサ♀。タゲリ17羽が湖面上をゆっくり北上して桜草公園方面に飛んだ。ヨシガモ、マガモ、コガモ、カンムリカイツブリ、カイツブリ、オオバン、コゲラ、モズ、ホオジロなど。翌日午前中、同所に行ったがミコアイサ、カワアイサは確認できなかった（陶山和良）。

行田市須加下中条 ◇1月7日、利根大堰付近でミサゴ1羽、ハヤブサ1羽、ノスリ1羽、セグロカモメ2羽、ハマシギ20羽土、シロチドリ2羽、カンムリカイツブリ。ツクシガモ7羽、右岸近くから飛び立ち、堰上流を泳いでいた（鈴木敬）。

深谷市本白鳥飛来地 ◇1月9日、コハクチョウ28羽、ホオジロガモ25羽土、オジロトウネン6羽、ハマシギ5羽、クサシギ3羽、イソシギ5羽土、コチドリ1羽、イカルチドリ10羽土、オオタカ成鳥1羽、ハヤ

ブサ1羽。ツミ♂とノスリ各1羽が上空で絡み合った。1月22日、コハクチョウ24羽、ホオジロガモ15羽土、コガモ3羽、クサシギ3羽、イソシギ5羽一、イカルチドリ5羽土。上流部にはホオジロガモの別の群れ、ミコアイサ、ホシハジロ、キンクロハジロ、オカヨシガモなどが集まっていた（鈴木敬）。◇1月9日、コハクチョウ30羽十、ホオジロガモ♂繁殖羽5羽、♀型5羽十、一時よりも♀型が減った。コチドリが、まだいる（2～3羽）。オジロトウネン4～5羽、それぞれ単独行動。この鳥が群れているのを見たことがない。ガビチョウ1羽、さえずる（小林洋一・小林みどり）。

吉見町吉見大沼 ◇1月9日午前、コガモの群れの中に亜種アメリカコガモ♂を1羽見つける（榎本秀和）。

さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇1月9日、オオハクチョウ4羽、コハクチョウ5羽、トモエガモ♂1羽、チュウヒ2羽、ハヤブサ1羽、ミコアイサ♀1羽、クサシギ2羽など合計36種。トモエガモは見沼自然公園にいた個体だと思われる（須崎聡）。

さいたま市見沼区膝子 ◇1月9日、ミヤマガラス100羽近い群れ、ハシボソガラスと混群になっていた（鈴木聡）。

さいたま市岩槻区末田 ◇1月9日、元荒川の永代橋付近でヒドリガモ150羽土、こんなにまとまった数のヒドリガモはこの地区では初めての観察（内田克二）。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇1月10日、高麗川右岸中里堰近くの河川敷の水溜りに、木の枝から次々に降りて、水を飲むオナガ10羽ほどの群れ。護岸沿いに上流に歩くと、オオバン7～8羽が水面上を駆けるように水しぶきをあげて、追いかけてこ。対岸の木にとまっているノスリ1羽。護岸から排門方向に左折、前方の木の枝先にベニマシコ♂1羽。1月11日、高麗川のオオバンの群れの中にスズガモ♀1羽。ビオトープ側から見る。当地初確認。ビオトープ内水路、ワンドのヨシの穂先にベニマシコ♀2羽（増尾隆）。

さいたま市北区芝川 ◇1月10日、石橋～鷺山橋でコガモ♂4羽、♀型3羽、カルガモ5羽、ヒドリガモ♂7羽、♀8羽、ハンビロガモ♂エクリプス1羽、バン成鳥2羽。オオバン1羽、岸に上がって採食。1月30日、若鳥と思われるオオタカ1羽。ハクセキレイ、シジュウカラ、ムクドリはもうペアで行動している（小林みどり）。

さいたま市北区大宮第二公園 ◇1月10日、カワセミ♀1羽、池の中の杭にとまり「チッチッ」と、アオジのような声で鳴く。♂1羽が飛んできて、すぐ近くの杭にとまる。ペアかな？（小林みどり）。

さいたま市見沼区芝川第七調節池 ◇1月10日、ツグミ8羽、オオジュリン1羽（小林みどり）。

さいたま市見沼区膝子～緑区上野田 ◇1月12日、ツミ1羽、ツグミ20羽＋、ホオジロ2羽、カシラダカ2羽、ミヤマガラス200羽＋、この中にコクマルガラスらしき姿は見つからなかった（小林みどり）。

草加市そうか公園 ◇1月12日、オジロビタキ2羽。1羽はニシオジロビタキであることを確認できたが、もう1羽は不明（小林洋一・小林みどり）。

白岡町西 北緯36.0140東経139.6493 ◇1月12日、元荒川八幡橋中州でタシギ14羽とイカルチドリ3羽が採餌。セグロカモメ4羽とチョウゲンボウ♀1羽が通りすぎた。他にカルガモとコガモが多数（長嶋宏之）。

さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇1月14日、オオハクチョウ成鳥2羽、幼鳥2羽、コハクチョウ5羽、オオタカ1羽、ノスリ少なくとも4羽、チュウヒ2羽、チョウゲンボウ1羽＋、ベニマシコの声（小林みどり、神奈川支部会員24名）。◇1月22日午後1時30分～3時、オオハクチョウ4羽、コハクチョウ6羽、チュウヒ2羽、ハヤブサ1羽、ノスリ1羽、ハイタカ2羽（成鳥、幼鳥）、オナガ10羽士など合計33種。雨上がりのせいか猛禽類はあまり飛ばなかった。観察できた個体は木もしくは鉄塔にとまっていた（須崎聡）。

長瀨町 ◇1月21日、雪の降る寒い中、岩畳

の荒川対岸の山の木に、10羽ほどのアオバトが体を丸めて休んでいた。翌日も確認に行ったが、近くで見えることはできなかった。日暮れ前に、山の頂上近くの松の木に集まり、東の山（長瀨町風布）に向かって集団で飛ぶハトの姿は確認した（吉川幸子）。

さいたま市岩槻区馬込 ◇1月25日午前、綾瀬川でイソシギ3羽、川面すれすれを鳴きながら編隊飛行。カイツブリ1羽、水深20～30cmの川なのに潜った。オナガガモ1羽、マガモに混じっていた（本多己秀・久文字）。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇1月26日、オオタカ若鳥1羽、森の中を飛ぶ。「キッキッキッ」という声も聞こえるので、もう1羽いるのかと思いきや、カケス1羽の物まねだった。コゲラ♂1羽、低木の枝をつつく。後頭部の赤い羽が両側ともフルオープン！ ルリビタキ♂成鳥1羽、最近、どこへ行っても振られればなしのルリビタキ、ようやく会えたのは、自宅にいちばん近い場所だった（小林みどり）。

吉見町八丁湖 ◇1月29日午前10時、オンドリ♂♀、去年からいるようだ。ルリビタキ♂♀、今シーズン初（本多己秀・久文字）。

北本市北本自然公園 ◇1月29日、ルリビタキ♂、キセキレイ、ジョウビタキ、タシギ。クイナの声（本多己秀・久文字）。

久喜市上大崎 ◇2月5日、コチョウゲンボウ♀がヒバリを襲撃したが失敗。どこかへ飛び去る。やがて、150羽ほどのミヤマガラスとコクマルガラスの混群が渦を巻きながらやって来た。コクマルガラスが「キュンキュン」鳴いて騒がしい。群れの半数はコクマルガラス（いわゆるシロマル、ハイマル、クロマル）だ。こんなにたくさんのコクマルガラスの集団を見るのは初めて（榎本秀和）。

表紙の写真

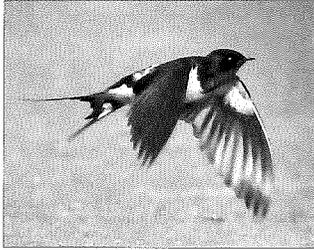
スズメ目シジュウカラ科シジュウカラ属シジュウカラ（幼鳥）

訓練し親連れ回り巣立ち鳥。自宅にて。

ブリングマン・ウィリアム（ふじみ野市）



行事案内



ツバメ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。「会員限定」と記載してあるもの以外は、どなたでも参加できます。小学生以下は保護者が同伴してください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。遠慮なく見て、楽しみましょう。

参加費: 就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物: 筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻: 特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：5月3日（木・祝）

集合：午前9時15分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線東武動物公園駅東口から境車庫行き8:45発バスにて「上宇和田」下車、北方向に徒歩約5分。

担当：中里、栗原、植平、佐野、佐藤、竹山

見どころ：五月の風が新緑の林を気持ちよくわたり、梢ではホオジロがさえずっています。田植えの終わった田んぼではツバメが軽やかに舞っています。夏鳥たちが勢ぞろいで皆さんをお待ちしています。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日（土・祝）



3月10日見沼たんぼクリーン大作戦は、雨の中のゴミ拾い探鳥会になりました。

集合：午前9時30分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和8:28→南浦和8:30→南船橋9:20頃着。

担当：杉本、手塚、長谷部、伊藤(芳)、和田、菱沼(一)、野村(修)

見どころ：シギ・チドリ等の春の渡りを観察します。干潟の鳥は初めての方、昨年覚えたことを忘れかけている方、復習したい方、ぜひお出かけください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月6日（日）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、田中、長嶋、吉安、菱沼(一)、長野、青木、榎本(建)、赤坂

見どころ：連休明けの田んぼでムナグロの群れと、それに混じっているシギ・チドリを、黒浜沼周辺ではコアジサシ、オオヨシキリなどの夏鳥を探します。サギやキジなどの鮮やかな春の装いも楽しみです。

ご注意：今回は元荒川の川島橋左岸から黒浜沼（環境学習館）までの片道コースです。車の方は、環境学習館ではなく北側に新しくできた“緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場”をご利用ください。川島橋まで徒歩約15分です。

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：5月11日（金）（夜行・船中泊）～13日（日）

詳細は4月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月13日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発に乗車。

担当：森本、倉崎、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鵜飼、岡田

見どころ：新緑の美しい季節となりました。さわやかな風のなかで、やってきた夏鳥たちや渡り途中の鳥たちとの出会いを楽しみましょう。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月19日（土）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅南口階段下、集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部 8:22→久喜 8:35→花崎 8:42着。JR宇都宮線大宮 7:58→久喜 8:23で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、中里、栗原、内田、植平、長谷川、茂木、竹山、相原(修)、相原(友)

見どころ：青葉繁れる好季節、夏鳥を探して歩きましょう。池に舞う優美なコアジサシ、アシのてっぺんでにぎやかなオオヨシキリ、空にはセッカがさえざつているでしょう。今年はカッコウの声も聞けるかな。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月19日（土）午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月20日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、渡辺、若林、小菅、倉林、赤堀、新部、増田、宇野澤、須崎、船木、島山、柴野

見どころ：桜の青葉が代用水を覆い、カッコウの到来する季節となりました。さいたま市は「見沼田圃基本計画、アクションプラン」を発表し、いよいよ未来への展望が開けてきました。探鳥会もその一環として楽しくやります。ぜひどうぞ。

栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：5月20日（日）

詳細は4月号をご覧ください。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：5月26日（土）～27日（日）

詳細は4月号をご覧ください

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月27日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。交通：西武新宿線本川越 8:44発、所沢 8:38発に乗車。

担当：長谷部、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山口、石光、間生、星、水谷

見どころ：今月はオオヨシキリとササゴイです。個体数はあまり多くありません。特にササゴイはほとんど鳴かない鳥なので探すのが大変。見られたらラッキー。



3月11日見沼自然公園探鳥会では、1年前の大災害被害者の皆様に、心からの黙祷をささげました。



行事報告

2011年8月20日(土) 習志野市 谷津干潟

参加：30名 天気：曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ
 コチドリ キアシシギ イソシギ セイタカシギ
 ウミネコ キジバト コゲラ ツバメ ハクセ
 レイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュ
 ウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ
 オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種)
 (番外：ドバト) 潮回りが悪く、びっくりするく
 らい鳥がいない。昼食後にやっと海からシギ・チ
 ドリ類の群れが来て、居残った人だけ楽しんだ。
 青潮が発生していたが、そんな時にしか出ないス
 ピオゴカイの小さな幼生がたくさん泳ぎ回り、翌
 日にはアカエリヒレアシシギが3羽で盛んにそれ
 を捕食していた。皆さんにも見て欲しかったな
 あ! (杉本秀樹)

1月15日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：59名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ
 ブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マ
 ガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ
 オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ミコア
 イサ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ チュ
 ウヒ オオバン タゲリ セグロカモメ キジバ
 ト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセ
 キレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ
 ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオ
 ジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニ
 マシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシ
 ボソガラス ハシブトガラス (48種) (番外：ドバ
 ト) 今年も干し上げが始まって水位が下がり、相
 変わらず釣り人も多く、水鳥の数が少ない。カン
 ムリカイツブリとミコアイサの白が目立つ。やっ
 と谷中ブロックでトモエガモやカワアイサの小群
 があられ参加者たちを元気づける。この辺で見
 たいチュウヒが出現、ワシタカ類が姿をみせると
 ころはやはり遊水地。待望のベニマシコも何度も
 チョコチョコと現われた。(内田孝男)

1月15日(日) さいたま市 三室地区

参加：61名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
 ギ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ
 オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ キ
 ジ バン オオバン タシギ キジバト カワセ
 ミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
 ヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ
 ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ ア
 オジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハ
 シボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外：ド
 バト) 1年に1回のやや遠出の探鳥会。お目当て
 はナポレオン帽子のヨシガモ。今年も出現して全
 員が喜んだ。代用水沿いの斜面林からは久しぶり
 のアカハラ。今年も多くの参加者に、鳥がメイ
 ンの居場所が提供できそうだ。(楠見邦博)

1月21日(土) 久喜市 久喜菖蒲公園

参加：10名 天気：小雨

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ゴイ
 サギ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ
 コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホ
 シハジロ キンクロハジロ オオタカ バン オ
 オバン セグロカモメ キジバト カワセミ コ
 ゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ アカハラ
 ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ アオ
 ジ カワラヒワ スズメ ムクドリ コクマルガ
 ラス ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブト
 ガラス (37種) (番外：ドバト) 小雨、JR宇都宮線
 の不通と悪条件の中で開始。栈橋ではボート乗り
 場で休むセグロカモメ、オナガガモやヒドリガモ
 やオオバンを眼下に観察。池周遊コースではカン
 ムリカイツブリやヨシガモやキンクロハジロ、続
 いて水面をかすめて飛ぶカワセミ2羽、対岸にゴ
 イサギの群れやダイサギと次々に出現。加えて浮
 島に成鳥のオオタカを発見。続くアシ原で今季は
 珍しいアカハラが出現。北側の工場の高圧線には、
 ミヤマガラスとコクマルガラスの混群。37種の観
 察結果で、参加者は笑顔で帰途に。(長嶋宏之)

1月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

相原修一、新井浩、海老原教子、海老原美夫、大
 坂幸男、佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、藤
 掛保司、松村禎夫、吉原早苗

1月22日(日) 長瀨町 長瀨

参加: 15名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ キンクロハジロ イソシギ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) (番外: ガビチョウ) ライン下り発着場へ向かいヤマセミを探すが見られず。水管橋ではキャンプ場脇の池でキンクロハジロの♀2羽ずつ(珍しい)とヌルデの実をついばむイカルの群れを堪能する。高砂橋から上流へ走るシカのみ1頭を見ていたら、立ち止まって振り向いた。ヤマセミは見られなかったが、長瀨ならではの探鳥会になった。(井上幹男)

1月22日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 17名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボウ オオバン タシギ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 下見では冬鳥が少なかったが、出発直後にシメが現れて一安心。上沼では年初めにはほとんど居なかったマガモ、カルガモ、コガモが枯れたハスの中に潜んでいた。アシ原付近でカシラダカ、アオジ、オオジュリン等のホオジロ類も確認、林周辺でカケスやジョウビタキなど冬鳥たちを、少ないながらも楽しめた。(玉井正晴)

1月22日(日) 狭山市 入間川

参加: 8名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ チョウゲンボウ バン イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ

スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外: ドバト) 集合時には雨がやみ、スタート。参加者も皆リーダーなので、まるで懇親会。ただ、冬鳥が少なすぎ。カモ類を除けば、ビンズイとツグミだけ。大震災、原発事故との関連を考えてしまう。次回3月の探鳥会は例年通りであってほしい。(長谷部謙二)

1月26日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 38名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ トビ オオタカ ノスリ コチョウゲンボウ チョウゲンボウ バン オオバン クサシギ キジバト アリスイ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) 林の中ではツグミ、シメなどの冬鳥が見られたが、その数は少ない。三田谷池ではヨシガモがナポレオンハットを披露してくれた。近年、その数が増えている。橋の上では数名がアリスイを見ることができた。田んぼに出るといつもの電線にコチョウゲンボウが止まっていた。途中から赤城おろしが吹いてきたので、公園の西側を通過して無事終了した。(中里裕一)

1月29日(日) 茨城県 菅生沼

参加: 47名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ シロハラ ツグミ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外: ドバト) 茨城自然博物館の野外施設を中心に探鳥した。北風が強く寒い中で、陽だまりに集まったカラワヒワたちを見た。鳥たちも温かい場所が好きみたいだ。博物館の屋上から沼を見るとコハクチョウが50羽位いたが、カモの姿がなく残念。風の影響か、小鳥たちの少ない探鳥になってしまった。(入山 博)



●鳥獣保護の連絡先

不法飼育ではないかなど疑問がある場合、その地域担当の鳥獣保護員に現地調査をお願いするための電話連絡先です。

県環境部自然環境課野生生物担当
048-830-3154・3143(直)

- 中央環境管理事務所 048-822-5199
- 西部環境管理事務所 049-244-1250
- 東松山環境管理事務所 0493-23-4050
- 秩父環境管理事務所 0494-23-1511
- 北部環境管理事務所 048-523-2800
- 越谷環境管理事務所 048-966-2311
- 東部環境管理事務所 0480-34-4011

各所管区域は県のホームページでご確認ください。ホームページから各事務所にメール連絡もできます。

●コミミズク現場の報告

先月号編集後記のコミミズク撮影現場を、2月28日(火)に大坂幸男幹事、3月14日(水)に藤掛保司代表が視察しました。その結果、「公園内の駐車場に入れている車はなく、公園外の道路端に整然と駐車し、他の交通の障害になっている様子もない。コミミズクが出る場所によって毎日に異なるのかもしれないが、公園管理者が言うようなマナー違反は、その日は見られなかった」とのこと。しかし、恐らくそのような問題の日もあったのでしょうか。今後もウォッチャーやカメラマンたちの良識に期待します。

●会員の普及活動

2月25日(土)に予定されていた新ハイキングクラブ主催「野鳥を観る知る(1)見

沼たんぼ」は、東浦和駅に集合しましたが雨のため中止。小林みどり・浅見徹が指導して、集まった数人が任意でコースを回りました。

●ごめんなさいコーナー

前月号本欄「会員の普及活動」、1月14日(土)内牧公園周辺探鳥会指導者のうち、「植平徹」を「野村修己」に訂正します。失礼しました。

●会員数は

4月1日現在 1,934人。

活動と予定

●3月の活動

3月10日(土) 4月号校正(海老原美夫・大坂幸男・小林みどり・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎)。

3月18日(日) 役員会(司会:持丸順彰、各部の報告・新探鳥会企画・大麻生300回記念・新年度役員など)。

3月19日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け4月号を発送(倉林宗太郎)。

●5月の予定

5月5日(土) 編集部・普及部・研究部会。

5月12日(土) 6月号校正(午後4時から)。

5月19日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

5月20日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

他に見るものがなくて、陸にあがって歩いているオオバンを見ていたら、普段は羽毛で隠れている部分の脛節(けいせつ)が黄色であることを発見。目慣れた鳥にでも、初めて知ることがあるもんだ。得した気持ちの一日だった。(山部)

しらこぼと 2012年5月号(第337号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社